

【会員だより】

日米の資格の違い

在沖海軍病院 川越 崇(短大1回生)

今回、学友会だよりへの投稿依頼を頂きました短大1回生の川越崇と言います。

学生時代、麻雀に夢中で国家試験にも一度失敗しており、学生時代の話をお場で執筆することは控えたいと思います。

自分は現在、在沖海軍病院というアメリカ軍基地内の病院で勤務しています。以前は一般撮影と透視撮影を担当しておりましたが、今はMRIの業務担当をしています。軍病院という特殊な職場環境ですが、放射線技師としての業務内容は国内とほぼ変わりません。違いをいって言えば、患者層が若くて、ごつい患者が多いことですかね？折角ですので、自分が感じた日米の診療放射線技師としての仕事の違いをいくつか紹介したいと思います。

1、評価制度

患者さんからの意見や普段の勤務態度を総合的に評価して、上司が成績優秀な従業員と認めれば、一年間に5日の特別有給休暇や特別昇給が与えられます。もちろん逆もしかり、懲戒制度もありますよ。

2、資格更新制度

技師に限らず医師も含めて全ての有資格者は、団体にもよりますが毎年資格更新のために、団体に更新料を支払います。技師に関しては、2016年から資格更新のために10年ごとにテストがあり、成績によってはもう一度単位を取る必要があるかもしれない？とっておりました。アメリカではARRT(The American Registry of Radiologic Technologists)が診療放射線技師の主な団体です。しかし、超音波に関してはARDMS(American Registry for Diagnostic Medical Sonography)の団体の資格のほうが就職に有利だそうです。

一般的にアメリカで診療放射線技師として仕事をするにはARRTの資格取得後登録して、就職の際資格を提示しますが、各州によっては別途資格(State License)が必要なケースもあるそうです。

日本で言えば都道府県ごとによって就職時に必要な資格が違うようなものです。しかも技師といってもアメリカでは日本のような資格ではなく一般撮影、CT、MRI、超音波、核医学、マンモ、透視等それぞれ別の資格なので、たくさん資格を持っていると更新も大変ですよ。

3、保険制度

日本のような国民皆保険(①国民全員を公的医療保険で保障。②医療機関を自由に選べる。(フリーアクセス)③安い医療費で高度な医療。④社会保険方式を基本としつつ、皆保険を維持するため、公費を投入。)は素晴らしく、世界に誇れる制度なのを知っていますか？

米国における医療保険の無保険者は現在約4600万人で、人口の約15%に相当します。入隊した兵隊の家族の中ではERで何時間も待たされた等、すぐに診察してもらえなかった話はよく聞きます。

日本人で日本にいて保険証さえあれば、どこでも自由に診察が受診でき、薬が手に入るのが当たり前とっていますが、この保険制度は凄く貴重で時代に合った制度に変化して継続されることを切に願います。

4、機材管理、危機管理

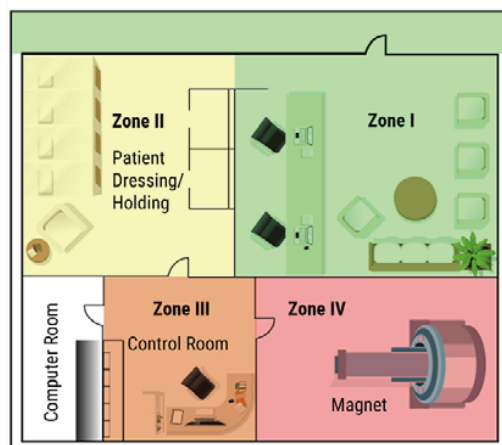
現在MRI担当なので危機管理に関して少し話します。

アメリカでは基本的に体内に金属(ペースメーカー、シャント、クリップ等)を埋め込む手術をした際、患者に製造番号、モデル番号、病院、日付等が書かれたカードが支給されます。患者が問診票に一つでもYESにチェックがあれば、その情報を元にMRI safety.com(<http://mrisafety.com/>)もしくはIMRSER(<http://www.imrser.org>)のサイトでチェックして最終的に検査可能かどうか放射線科医の判断を仰ぎます。

皆さんの施設において、他院で手術した患者がMRI検査に来て困ったことはありませんか？

誰もが確実な情報で素早くアクセスできて、検査可能かどうか判断出来るシステムが日本国内にもあると良いですね。

もう一つ特徴的なシステムがMRI Safety Zonesです。MRIの機械がある施設はZONEと安全管理の情報等必ずドアに表示する義務があります。MRI検査室(ZONE3, 4)のドアはカード式なので基本的に技師以外入室できません。



患者は問診票記入後ドアにある金属探知機を通り検査室内に入って検査します。

また、吸着事故を防ぐために院内全従業員にオンラインでトレーニングを受けてもらいます。麻酔科のスタッフは検査室内に機械と共に常駐するため別途トレーニングを受けなければ室内に入れません。

写真は MRI 検査室で、先輩と放射線科医と撮った写真です。

(筆者 写真左)

如何でしょうか？

他にも裁判が日常茶飯事のアメリカ社会では、デジタルマーカ―は使わないほうが良いとか、遺体の撮影もあるとかいろいろありますが、これで終わりにしたいと思います。

最後に。

自分は資格所得後ダイビングに夢中になり、沖縄の綺麗な海に魅せられて移住することになりました。

仕事を探す際、資格って本当に取って良かったと思いました。バイク一つでフェリーに乗って沖縄に来て素泊まりで電話帳の病院に電話してわずか数日で職に就くことが出来たからです。

末筆となりましたが、この場を借りて学生時代お世話になった先生方、学生時代に同じ卓を囲み大阪で居候して迷惑かけた K 君、鳥取で透視撮影向上に頑張っている K 君、本当に有難う御座いました。

学友会ははじめ皆様の御健勝と御多幸を心より御祈り申し上げます。

以上

